

アブストラクト：縦断研究の数は年々増加し、現在では年間一万件を優に超える論文が世界で発表されている。心理学や周辺領域において、個人内で生起している変化の関係としての個人内関係(**within-person relation**)の推測は、縦断研究における中心的なテーマの 1 つである。特に、多変数間の変化の関係としての個人内の相互関係(**reciprocal relation**)の推測を目的としたランダム切片交差遅延パネルモデル(**RI-CLPM**)は、過去 10 年の間で国内外の心理学や周辺領域の研究で急速に普及した。**RI-CLPM** では構造方程式モデリング (**SEM**) の枠組、すなわち共分散構造に基づく最尤推定の利用が最も一般的である。本発表では、特に少数時点の縦断的な調査・観察研究を想定しながら、個人内関係の推測や **SEM** の基本的事項について導入したのち、**RI-CLPM** や周辺の統計モデルについて説明する。個人内関係の推測のために利用可能な統計モデルが **RI-CLPM** 以外にも多々ある中で、モデル選択を巡る議論は今なお進行中の話題が多い。また、方法論的な話題として、**RI-CLPM** やそれに対して測定誤差を導入したモデルを最尤推定する場合に頻発する不適解の問題に対処するための行列分解(**matrix decomposition**)を用いた **SEM** の推定アプローチ、さらには **RI-CLPM** のように潜在変数間の変化の関係としての個人内の相互関係の推測を行う場合の構造ネスト平均モデルを用いた段階的なロバスト推定についても話題提供を行う。